新島学園短期大学紀要　第34号　30周年記念号　２０１４年
＜研究ノート＞

三浦綾子と「日本昔ばなし」

－三浦文学の言葉と「昔ばなし」の教訓の融合－

工　藤　正　宏

Ayako Miura & Old Stories of Japan

－The Fusion of The Teachings in Miura Literature and the Morality in Old Stories－

Masahiro Kudo

Niijima Gakuen Junior College
Takasaki, Gunma 370-0068, Japan

序

三浦綾子（1939-1999）の生涯は、結核・脊椎カリエス・直腸癌・パーキンソン病等に侵された病苦の人生であった。北海道旭川に生まれた彼女は軍国主義のさなか小学校教員として軍国主義教育を子供たちに熱心に説いてきた。しかし終戦により自らが軍国教育に加担し「真理」ではなかったことを教えた自責の念に駆られ教職を辞した。この頃、肺結核を患い、同病の幼馴染から受けたキリストの教えに大きく感化され、敬虔なクリスチャンとなった。新たに小説家として才能を発揮し、晩年は献身的な夫の口述筆記により多くの作品を世に生み出した。病苦の中にあっても「生きられること」への感謝の気持ちが読者の心を温かくしてくれる。数多くの作品には聖書に基づいた人間への教えがあちこちに散りばめられ、《人間の罪と神の愛》が魂を揺さぶる。30 代の頃、「氷点」「塩狩峠」に深い感銘を覚え、彼女の作品を手当たり次第読みあさり、心に残る言葉をノートに書き写した。事あるごとにその言葉を読み返し共感を覚えた。年齢を重ね人生の折り返しの 50 代、全集にて再び彼女の作品を読み、自分が彼女の言葉にいかに励まされて人生を送ってきたかを実感し、20 代の時では気づかなかった新たな視点で彼女の作品を再読し、新たな言葉を発見しノートに付け加えた。彼女の作品から抜き出した珠玉の言葉は私にとっては人生の聖書（バイブル）であり、生きる指針であり、亡き三浦綾子の言葉を次代の人々にも伝えたいと考えている。

一方、20 代の頃、土曜日の晩のＴＢＳ「日本昔ばなし」の巧妙な語りと夢あふれる映像に魅せられ、この素晴らしい日本の伝承物語を海外の人に伝えたいという思いで英訳に取りかかった。そしてコンピューター、インターネットという新しい技術革新によるネット発信を最大限利用することとした。当初は英訳のみの発信であったが、「昔ばなし」が国内でも知られていない実態を知るにつけ現代語訳をつけて国内の子ども向けにも発信することとした。内容も、最初は簡単な「日本昔ばなし」であったが、徐々に今昔物語、宇治拾遺物語等の古典文学、古典落語、著作権の消滅した芥川龍之介、宮澤賢治、新美南吉等の新たな作品へと範囲を広げ、支援者の援助のもと、現在約 260 話にも及ぶ翻訳作品を発信している。国内外からのアクセス数も 100 万を超え、多くの支持者を得ている。先人によって語られた「昔ばなし」が、何世代もわたって伝承されてきたことは、その中に先人たちが後世に伝えたいと願う教訓が秘められているのではないかと考える。

三浦綾子の言葉と「昔ばなし」に秘められた教訓を融合することにより、三浦綾子が聖書から受けた教えと、先人が「昔ばなし」に託した教訓が「人間とは何か」「人間はどう生きるべきか」に関して私たちを導いてくれるのではないかと考え、考察してみることにする。

Ⅰ. 事例紹介

各テーマを定め、三浦文学から関連する言葉を選び、関連する「昔ばなし」から秘められた教訓を自分なりに解釈し、多分に三浦綾子に感化された自らの人生訓を交え融合を試み、最後に古今東西で一般化していると思われる関連する聖書・ことわざ等を加え、グローバル化を図り融合のまとめとした。

①別離

「人生というのは、この１分後に何が起こるかわからないもの。死ぬまでには、いろいろな辛い思いをする。肉親や友人との死別がある。それを一つ一つ乗り越えていくのが本当の人生である。」『**石の森**』

「生きていくということは、傷つけ合うことかも知れないんだ。何の傷も受けずにこの人生を終わらせる者はいない。」『**石の森**』

「別れは人をやさしくさせるものだ。」『**天北原野**』

『**泣いた赤鬼**』子ども好きな赤鬼のために、あえて悪者となり手紙を残して別れて行った青鬼。子ども達と友達になれ喜び絶頂の赤鬼にとって、青鬼の別れの手紙を手にした時の絶望感は計り知れない。青鬼にとっては更に辛い決断であったであろう。出会いには必ず別れがあり、永遠というものは存在しない。全てのものは最後には死という形で別れを向かえることを心に

留めておかなければならない。
‘The best of friends must part.’（会うは別れの始まり）

②兄弟
「兄弟とは、指定席に隣り合わせた乗客に似ている。その席に座ったが最後、どちらかが降りるまでは、いやでも応でも並んでいなければならない。それは自分の意志で選んだ友人とか恋人とか夫婦などとは、全く別の関係なのだ。」『裁きの家』
「兄弟は同じ親から生まれた別々の人格さ。同じ親から生まれた他人だ。」『残像』
『塩うす』正直者の弟が手に入れた魔法の石臼。不誠実は兄が、海の上で塩を出したが止め方がわからず海は塩辛くなってしまう。大方、兄弟（姉妹）は、性格、体力、能力、外見等が異なっているものである。血縁であるがゆえに、かえって血みどろの諍いが生じることが多々ある。仲の良かった兄弟姉妹が、遺産相続、親の介護等で険悪な関係になることはよくあることである。
‘A near friend is better than a far-dwelling kinsman.’（遠くの親類より近くの友人）

③故郷
「人間なかなか住み慣れた故郷は離れられないもんね。自分の生まれ育った土地ってものは、こりゃ何とも愛しいものだ。」『母』
『浦島太郎』亀を助けたお礼に竜宮城で連日の夢のような生活を送る太郎。ふと懐かしい故郷を思い出し戻ってみたもの、そこは変わり果てた故郷。アメリカの作家アーヴィングの Rip Van Winkle は「アメリカ版浦島太郎」である。生まれ育った所、学んだ校舎、語り合った友・・・故郷を離れてみて、一層故郷を懐かしく思う。お盆、正月の帰省は日本の年中行事となっている。人生の困難にあった時、心に悩みを持つ時、人間は精神的安らぎを求めて故郷へ、そして母の元へ帰って行く。
‘Home is where the heart is.’（故郷は遠くにありて思うもの）

④夫婦
「夫婦っていうものは、嵐吹く時が大事なんだ。嵐の吹く時も、晴れの日と同じようにしっかりと心が結ばれていなくちゃいかん。」『嵐吹く時も』
「夫婦には、いろいろな未来が待っている。結婚式を挙げる時、いかなる夫婦といえども、これから先何十年の間に、何が起こるか予想しえないのだ。事業が失敗するか、あるいは交通事故で不具になるか、または殺人を犯すか、それは誰にもわからない。未来とは、そのような恐ろしい可能性をも含んだ不気味なものなのだ。二人の男女が将来を誓うということは、その不気味な未来をも、あるいは輝かしいかも知れない未来をも、ひっくるめてともに背負うことなのだ。」『裁きの家』
「案外どこの家でも夫の不貞、妻の浮気、嫁姑の不仲、子供の非行など、人には聞かすことのできない恥ずかしい話があるかも知れない。けれども人々は何とか一応の対面を保っているのかもしれない。」『氷点』
『舌切り雀』意地悪ばあさんに鋏で舌を切られた雀の宿を探しに出かけたやさしいおじいさん。「昔ばなし」では、親切なおじいさんが多いのに対し、親切なおばあさんの記述は少ない。長い夫婦生活が人格を変えたのであろう。欲のないおじいさんが「小さい箱」を選び、欲深いおばあさんが「大きな箱」を選ぶ場面は、シャイクスピアの「ヴェニスの商人」の一場面と類似している。愛し合って結婚した二人も、時の経過とともに愛情が薄れ、性格の不一致、口論、暴力、不倫等で離婚へとつながっていく。長い夫婦生活色々なドラマが待っている。同じ屋根の下で、別々の個性が暮らしていくことは実に難しいことである。夫婦円満の秘訣は、二人だけの秘訣であり他の夫婦には当てはまらない。
‘It is better to dwell in a corner of the housetop, than with a brawling woman in a wide house.’(Bible : 旧約・箴言 21-9)（広い家で口うるさい女といるよりも、屋根裏の隅に暮らす

ほうがましである）

⑤**隣人**
「隣に住む人とは一つこじれるとなかなか仲良くいかぬもの。」『**夕あり朝あり**』
「敵というのは、一番仲良くしなければならない相手である。」『**氷点**』
『**花咲か爺**』やさしいお爺さんと意地悪なお爺さんが隣同士。「ここ掘れワン」出てきた金貨を羨ましく思った隣の爺さんが無理やり吠えさせ、出てきたのは蛇。モーゼは十戒の中で「…隣人のものを一切欲してはならない」と民に告げた（旧約「出エジプト記 20-17」）。都会はともかく田舎では近所付合いは必須である。戦時中に作られた隣組が地方の農村等に現存し、良しも悪しも隣保班の共同作業で環境整備、道普請、葬式手伝い等を行っている。現代にあっても「村八分」に類したものは村に限らず、学校、職場等でも存在する。人から仲間はずれにされ、無視されることはとても辛いことであり、ひどく人を傷つけることである。人間は自分より弱いものをいじめることによってうっぷんを晴らそうとする醜い動物なのかもしれない。
‘Love your neighbor as yourself.’(Bible：新約・マタイ福音書 22-39)（汝自身を愛するように、汝の隣人を愛せよ）

⑥**幸福**
「金や財産は、運が向けば入ってくる。しかし、なくなる時は、あっという間になくなる。頼りないものだ。」『**天北原野**』
「人間金を持ったかて幸せとは限らんぞ。金だけでは幸せになれんのが人間や。」『**ちいろば先生物語**』
「人間は見たところ幸せそうに見えたとしても、必ずしも幸せとは言えない。」『**道ありき**』
「自分が幸福でありたいように、他の人々もまた幸福でありたいと願っている。」『**羽音**』
「人生ってもんは、禍と幸福が交ざり合っているもんだ。不幸続きばかりと決めたもんでもあるめえ。人生、雨の日もありゃあ、天気の日もあるべえ。」『**母**』
『**藁しべ長者**』藁一本をミカン・布・馬と交換し長者の娘さんと巡り合い、貧乏から金持ちになった若者。でも男は生涯藁一本たりとも無駄にすることはなかった。幸福を数値化することはできない。お金があれば便利だがお金が全てではない。何不自由なさそうな人が突然自らの命を絶つことがある。幸福の条件とは、お金、時間、そして心に余裕のあることであり、幸不幸は心の持ち方によって決まる。
‘Blessed are the poor in spirit.’(Bible：新約・マタイ福音書 5-3)（貧しい人は幸いなり）

⑦**愛情**
「海という字の中に母がある。母は海のようにゆったりとした存在でなければならない。」『**青い棘**』
「愛するとは何回も何回も許すことだよ。」『**ひつじが丘**』
「愛するということは、馬鹿な部分がなくちゃできないことなのよ。」『**石の森**』
「何度も手をかけることだ。そこに愛情が生まれる。ほうっておいてはいけない。人でも物でも、ほうっておいては、持っていた愛情も消えてしまう。」『**続氷点**』
『**子育て幽霊**』死しても墓の中で赤ん坊を育てる母。コゼットのため娼婦に身を落として死んでいくファンテーヌ（レ・ミゼラブル）の姿が重なる。母の愛情は海より深いと言われる。親になって初めて分かる親の愛情だが、どんなに親に尽くしても親から受けた愛情には及ばない。「子育て」は大変で思うようにいかないものであるが、人生の中で「子育て」は最も充実した時期である。そして子どもの成長とともに親も成長していく。
‘Love is patient and kind. Love is not jealous or boastful or proud or rude. It does not demand its own way. It is not irritable, and it keeps no record of being wronged. It does not rejoice about injustice but rejoices whenever the truth wins out. Love never gives up, never

loses faith, is always hopeful, and endures through every circumstance. (Bible：新約・コリントの信徒への手紙１13-4)（愛は寛容であり、愛は情け深い。妬むことをしない。愛は高ぶらない。誇らない。不作法をしない。利益を求めない。いらだたない。恨みを抱かない。不義を喜ばない。真理を喜ぶ。全てを忍び、全てを信じ、全てを望み、全てに耐える。訳：三浦綾子『**雪のアルバム**』)

⑧**結婚**
「結婚したからと言って、その日から二人は完全な夫婦になったのではない。夫婦になるためには、毎日努力して、一生かかって夫婦になるのです。」『**生きること思うこと**』
「愛し合ったから結婚したのではなく、結婚したから愛し合うのです。」『**明日のあなたへ～愛することは許すこと～**』
「不幸に育った人は、親の結婚がどんなものか、知っていますよ。だから口先だけでおめでとうなんて、いいやしませんよ。」『**残像**』
「一人の結婚は、十人の悲しみ。」『**この土の器をも**』
「40 歳までは独身でいることもできる。だが 40 を過ぎると、共に年を取ってくれる相手が欲しい。」『**愛すること信じること**』
『**ねずみの嫁入り**』かわいい娘の結婚相手探し。太陽は雲に隠れ、雲は風に流され、風は壁に止められ、壁はねずみに食べられる。結局はねずみが最良の伴侶となる。理想の結婚相手、一昔は三高（高学歴・高収入・高身長）、今は三低（低姿勢・低燃費・低コスト）とか言われている。若き肉体もいずれは老いる。結婚相手としては高嶺の花より、２番手が良いのかもしれない。ともかく結婚が人生の最大の賭けであることは昔も今も変わらない。若い時は、コーヒー・ケーキ・ドライブ・子育て、歳をとったら、番茶・饅頭・散歩・介護、そんな幸せな家庭を築いてもらいたい。
‘Good husband makes a good wife.’（良き夫は良き妻をつくる。良き妻は良き夫をつくる）

⑨**秘密**
「人間は誰でも、尋ねられたくないものをもっているもんだ。隠しておきたいことは、聞いても語らないだろうし、聞いて欲しいことは、聞かんでも自分で語るもんだ。」『**銃口**』
『**鶴の恩返し**』わなにかかった鶴の化身としてやってきた娘さん。「機を織りますので決して覗かないでください」。しかし欲にかられてついに覗いてしまう。「していはいけない」「しなさい」と言われると反対のことがしたくなるのが人間の本性である。個人、企業、国家それぞれに秘密がある。人間、誰にも人に知られたくないことが二、三はあるが、人にこっそり話したくなる秘密は、もはや秘密ではなくなる。その人から他人へあっという間に広がっていくことであろう。しかし、秘密を持続することは心の大きな負担である。「自分の心」と書いて「息」である。時には、誰もいないところで思い切って吐き出してみることも大切である。
‘A secret between more than two is no secret.’（二人以上の秘密は、秘密ではない）

⑩**協力**
「人は一人では何ほどのこともできない。他の人の協力があって、はじめて事は成功する。」『**石ころのうた**』
『**桃太郎**』鬼が島の鬼を退治した桃太郎には有能な部下、犬（忠実）・猿(知恵)・雉（勇気）がいた。彼らの活躍は大きかった。だが遠く離れた鬼が島に出かけ、金、銀、織物を持ち帰る姿は、かつての日本の侵略戦争を思い出させる。組織、学校等にあって、部下や学生を大切にし、「この上司（先生）のためなら何でもしよう」と思っている部下（学生）のいる組織、学校は必ずうまく行く。組織、学校で実際に実行するのは部下（学生）であり、上司（先生）は器の大きな部下を愛する人徳ある指揮官であって欲しい。
‘Many hands make light work.’（人手が多ければ仕事は楽になる）

⑪欲望
「大きいことをするよりも、小さくてもよい。目立たなくてもよい。よき行いをしなければならない。」『夕あり朝あり』
「人間誰しも、性欲、食欲、事業欲、名誉欲等々、数々の欲望を持っている。が、その欲望にふるまわされて破局に至る人間と、その欲望をコントロールして、無事に人生を生きていく人間がある。」『明日のあなたへ～愛することは許すこと～』
『赤ん坊になったお爺さん』岩の間から湧き出た清水を飲んで若返ったおばあさんを見て、自分もと飲んだのは良いが欲に負け、飲み過ぎて赤ん坊になってしまったお爺さん。人間の欲というのは限りがない。1980 年代後半のバブル期そして崩壊。欲の果て、幸せの絶頂もつかの間、我が身を滅ぼした人も多かったことであろう。ギャンブル、宝くじ等の短期で稼いだあぶく銭は短期でなくなり、人間を破壊に導くものである。汗水たらして真面目に地道に働くことが大切である。
‘Money doesn’t grow on trees.’（金は木にならない）

⑫復讐
「人間って、みんな復讐したいものを持って生きているんじゃないの。あいつに天罰でもあたらないかなどと、はかない望みを持ったりして。そんなものなのよ、人生って。」『残像』
「罰があたらないで、人間したいまま悪いことをしている状態が、最も恐ろしい罰だろうね。」『残像』
『かちかち山』親切なおばあさんの仇を討つために、うさぎが復讐する。たぬきは背中のたきぎに火をつけられたり、からしを塗られたり、最後には泥舟で川に沈められる。復讐とはひどい仕打ちを受けた人が相手に対してやり返す恩返しの反対、仕返しである。「倍返し」という言葉も有名になった。戦争、テロ行為はこの行為であるが、「忠臣蔵」「曽我兄弟の仇討ち」のように美徳とされるものもある。近年、ふられた交際相手を殺傷する事件が頻発している。彼、彼女を見返させてやろうと必死に勉学や仕事に励み、見事有名大学に合格、部長に昇進とかいう「仕返し」はよいのではなかろうか。
‘Revenge is a dish best served cold.’（復讐は冷まして出すのが最高の料理である）

⑬裏切
「人間同士というものは、憎しみ合うように生まれついているんだ。お互いを裏切るようにできているんだ。どんな誠実な人間だって、心の底では幾度人を裏切っているのかわからない。」『ひつじが丘』
「人間というのは完全ではありません。いつも何かしらの過失を犯しています。過失を犯さなければ生きていけないのが人間です。」『ひつじが丘』
「自分を裏切らないという存在はない。自分もまた決して人を裏切らぬという確信はない。」『石の森』
「生きてるってことは、結局は人を傷つけていることになる。人を一度も傷つけずに生きている人間なんてありはしない。」『天北原野』
『歌う骸骨』江戸に出た兄弟。３年後故郷の橋の上で、兄にお金と持ち物と命を奪われた弟が骸骨となって兄の悪行を歌う。聖書にも兄カインが弟アベルを殺害する場面が記載されている（旧約「創世記 4-8」）。戦国の世にあっては騙し合い・策謀・裏切りが常であった。そうしなければ生き残れない時代であった。現代にあっても自らの地位を欲するため平気で同僚を裏切ることがある。教師も、生徒には何度も何度も裏切られる。その度に怒りを感じ、己の力不足を実感することであろう。期待が大きければ大きいほど落胆も大きいことであろう。しかし、「人間は完全なものではない」と思えば怒りも落胆も収まり、平静さを取り戻すことであろう。
‘Keep something for a rainy day.’（備えあれば憂いなし）

⑭病気
「病気の間は治すという目標がある。しかし治ったら一体何をしたらいい。」『氷点』
「病気の時は、呼吸をしているだけで、精一杯の仕事だ。」『ひつじが丘』
「誰も病気にかかりたくて病気になる者はいねえ。」『泥流地帯』
「人がもし、病気一つせず、成績優秀で人後に落ちたことがなく、経済的な苦労をひとつも知らず、一流校にはいり、一流の会社に勤め、一度も失恋したことがなく、人より早く昇進出世したとしたら、いったいどういう人間ができあがるのだろう。よほどの謙遜な人間でない限り、人を見下し、思いやりのない人間になってしまいはしないだろうか。」『愛すること信じること』「人間、病気の時と健康の時とでは、人が変わったようになるものだ。病気になると強情になったり、わがままになったり、気弱になったり、甘えたりしやすいものだ。」『嵐吹く時も』
『山ぶどう』病気の母のため、雪山に魔法のぶどうを採りに出かけた三人の娘。戻ってきたのは雪女の言うことを聞いた三女であった。シェイクスピアの「リア王」でも真実の心を持っていたのは三女であった。一生の間、健康でいることはできない。病気はある日突然やって来て、生活環境を一変させる。しかし、病気になることも悪いことではない。病人の立場になって人を思いやることができるようになり、健康でいることを心から感謝できる。そして病気の経験が人間を大きくしてくれる。ただ病気は代わってやることはできない。人に迷惑をかけないためにも、自分の健康に注意することが大切である。
‘It is not until we lose our health that we realize the value of it.’（病気になって初めて健康のありがたさがわかる）

⑮試練
「もしも今までに、只の一度も試練に遭わず、つまり愛する人との死別にも生別にも遭わず、病むことを知らず、思いのままの人生であったとしたら、私は涙というものを知らない人間になったであろう。」『明日のあなたへ～愛することは許すこと～』
「この世の偉大な人間で、苦しみにあわなかった人は一人もいない。つまり試練なのだよ。」『病めるときも』
「苦難に遭った時、それを災難と思って嘆くか、試練だと思って奮い立つか、その受け止め方が大事なのではないか。」『続泥流地帯』
「人間はね、一人一人に与えられた道があるんです。」『道ありき』
「ふだんこんめいことに真剣でねえもんは、でっけいことに向かった時、何もできやしねえ。毎日のこんめいことが、大事だぞってな。」天北原野』
「正しき者には苦難がある。」『泥流地帯』
「自分の得をするようなことに出会った時は、人間試される時だと思う。得をしたと思って喜んでいたら、大いに誤るということがある。」『銃口』
「右か左か判断に迷うときは、自分の損になるほうを選びなさい。」『病めるときも』
『鉢かつぎ姫』臨終の母から頭に被せられた木鉢は取れない。娘の試練が始まる。父の再婚、義母の虐待、家からの追放、自殺未遂、下働き・・・「日本のシンデレラ」物語である。しかし、彼女を愛する若者。「この世で愛しているのはお前だけだ。お前と暮らしたい」と言った時、木鉢が外れ、中から金や銀や反物が出てくる。成功する人には、必ずそれなりの試練がある。それを試練と思うか、心の持ちようで試練も楽しいものになる。人生は、毎日が試練の場、失敗できる試練、生きていることを喜ぶ試練。そして試練を乗り越えるたびに人間は大きくなる。勉強でも仕事でも運動でも、最初はとてつもなく不安で苦しいものであるが、諦めることなく、地道に続けていると、いつの間にかその道のプロになっているものである。
‘Spare the rod and spoil the child.’（かわいい子には旅をさせよ）

⑯怠惰
「人間はね、ふだんぶらぶらしていてね、いざとなったらやるんだって言ってみても、駄目なんだよ。人間って、ちょっと油断するとすぐに怠け者になるからね。毎日の何でもないよう

なことでも、怠けないようにするって、大事だよ。」『**裁きの家**』
「人間って、本当に怠け者なんだ。学校の廊下に落ちている紙くずを拾うのに、一秒とかからないことにさえ、人間って怠けるんだよ。」『**裁きの家**』
『**三年寝太郎**』寝てばかりいる怠け者の寝太郎が突如起き出し、岩を動かし川の流れを変え村を旱魃から救う。武田信玄が軍旗に用いた孫子の「風林火山」という言葉が好きである。寝太郎はじっくり考え行動したのである。「じっと考え、動く時は大胆に」そんな人間が好きである。ただ、元来人間は怠け者であり、いったん便利な生活に慣れてしまうと、もう昔の不便な生活には戻れない。便利というのは人間を怠惰にするものである。便利になって空いた時間に何をするか、何ができるかが重要である。若者には、夢を持って、人生の目的・目標を立て、目標に向かって実行し、成果を挙げて、人生の喜びを味わってもらいたい。
'Heavy work in youth is quiet in old age.'（若い時の重労働は老いての平安となる）

⑰**成功**
「成功者というのはな、自分がなりたいと思った者になれたら、それが成功者だ。金を儲けるよりも、有名になるよりも、誠心誠意人のために生きる者になれたら、それは成功というものだ。」『**泥流地帯**』
「成功とはいうことは、有名になることでも、金持ちになることでもない。なろうと思うものになれたら、それも一つの成功だ。」『**銃口**』
「人間、普段の生き方というのも大事なものですね。」『**自我の構図**』
「日記を三年続けて書いた人間は、将来何かを成す人間である。十年間続けて書いた人はすでに何かを成した人間である。」『**氷点**』
『**炭焼き長者**』神のお告げで貧しい炭焼きの所にやって来た娘。若者はお金の価値さえ知らなかったが、炭窯の灰の中には沢山の金塊と砂金が埋もれていた。人生の成功者は決して金持ちではない。お金があれば便利だが、お金で買えないものもある。有名人になれたとしても、周囲から絶えず注目され、自由な時間はなくなるであろう。人生は、プラスとマイナスのバランス。努力した分だけ褒美があり、遊んだ分だけ報いがある。いかに努力したかでなく、いかに努力しているかが大切である。
'No gain, no pain.'（楽あれば苦あり）

⑱**失敗**
「いくら気をつけても、人間、失敗ということはある。」『**海嶺**』
「失敗は人間になくちゃならねえものかもしれねえ。一度も失恋したこともなければ、金のやり繰りに苦労したこともない人間なんてえのは、どんなものかねえ。人の涙も、悲しみも、思いやることができねえじゃねえか。」『**愛の鬼才**』
「人間というものは、都合の悪いことはみな、人のせいにしたがるものですよ。たとえ自分の失敗でも誰かのせいにしたいものですよ。」『**銃口**』
「失敗した時は、誰だって、あ、しまったなと思っているのよ。しまった、悪いことをしたと思っている時に叱ったら、もう、そのすまないという思いは消し飛んじゃうよ。ぐだぐだ言ったって何の役に立たないよ。」『**この土の器をも**』
「人間生きてりゃあ、一生の間に転ぶこともあれば、怪我をすることもあるもんだ。」『**水なき雲**』
『**屁こき女**』心優しい娘の一つの難点はおならを我慢できないこと。長者さんの家に嫁いだものの、とうとう人前でおならをしてしまう。完璧な人間などいない。人生は、失敗の連続であり、失敗をいかに乗り越え、失敗からどう学んでいくかが大切である。高い目標をもっていれば目先の小さな失敗にはくじけない。「失敗は人の常なり」と考え「良い加減」に生きると楽である。
'He who makes no mistakes makes nothing.'（失敗しない人は何も作り出さない）

⑲**真実**
「真実を教えるべき教師が、誤ったことを教えた罪は、乞食こそ最もふさわしい罰である。（乞食というのは）人に尊敬されたというみみっちさがないだけでも、聖人君子などより立派ではないか。」**『石ころのうた』**
「人間生まれてきて大事なことは、出世することではありませんぞ。ただ真理に忠実に生きることであります。」**『ちいろば先生』**
「土台というものは大切なものだ。人間の生活も、真実という土台の上に建てなきゃなあ。」**『天北原野』**
「あくせくして集めた金や財産は、誰の心にも残らない。しかしかくれた施し、真実な忠告、あたたかい励ましの言葉などは、いつまでも残るのだ。」**『続氷点』**
『芝浜の革財布』（古典落語）酒飲み遊び好きの夫のために、浜で拾った財布は夢だとして騙す妻。そして三年後酒を断ち真面目に働く夫に真実を告げる。嘘も方便と言われるが、時と場合による。医者が患者に真実ばかり話していたら患者は生きる希望を失う。かつての軍国教育、教えられていたことは真実ではなかった。教育とは、偽りを真実として信じさせてしまう恐ろしさを持っている。真理の追究は永遠の課題である。
‘All truths must not be told.’（真実は全て語られるものではない）

⑳**死**
「絶対といえるもの、それは必ず死ぬ、例外なくみんな死ぬ、ということです。」**『石の森』**
「人生にピリオドはただ一つで、あとはコンマ、コンマの連続。最後の終止符を打つまで、人生色々なところでコンマが打たれる。」**『石の森』**
「生まれた者は死ぬ。若い者は老いる。健やかなる者も病む。美しい花も散る。」**『細川がラシャ婦人』**
「人間は生きている限り、誰にも、何らかの使命が与えられている。」**『あさっての風』**
「生きているくせに文句を言うな。文句を言いたいのは死んだ人だ。」**『続泥流地帯』**
『月見草の嫁』馬子と夫婦になった娘。幸せもつかの間、馬草と一緒に刈り取った月見草を見せに戻った時、妻は息絶えていた。妻は月見草の精であった。人間の死は予期できない。若くして召された者はさぞ無念であったと思うが、その有能さゆえ天国から緊急に呼び出されたのであろう。この世にあるものは、一日一日を大切に、命ある限り自分の使命をまっとうしなければならない。死ぬときは喜んで死に、周りの人に泣かれるような人間になりたいものである。
‘Death is the grand leveler.’ (死は偉大な平等主義者である)

Ⅱ. 論考
三浦文学はキリスト教文学の金字塔であり、聖書を題材とした「祈り」の文学である。彼女の心底には「人間は弱き罪深い存在である。」という思いがあり、作品の登場人物の生き方を通して、この「弱き罪深い人間」に救いの手を差しのべたいという強い願いが、自らの病苦の中にあっても多くの作品を生み出した原動力であったと考える。
三浦綾子は 20 世紀を生きた女性であり、伝承された「昔ばなし」は今昔物語（12 世紀）、宇治拾遺物語(13 世紀)等で一つの集大成を迎えた。聖書には人類の誕生(紀元前)からキリスト復活（西暦元年）までの人類の歴史と神の教えが語られている。過去・現在・未来、いかなる時代にあっても「人間の本質」は普遍的なものであり、事例で取り上げた 20 のテーマのように、この世に生を受けた人間は、泣き、喜び、笑い、怒り、憎しみ、悲しみ、楽しみ、苦しみ、怠け、悩み、愛し、裏切り、耐え、病み、老い・・・、そして人生を終えていく存在である。現世に生きる私たちの使命は、何世代にもわたって遺伝子を通して受け継いできた「人間の本質」を、未来に生きる人間にしっかりと託していくことである。同時に、時代を超越して人生の歩みの救済となる人類の普遍的な言葉・教訓・教え等をしっかり守り、後世に伝えていくことが

責務であると考える。

結びに

三浦文学の言葉、「昔ばなし」に秘められた教訓、聖書(諺)の教えに自らの人生訓を交えて融合してみたが、限られた時間の中での考察であり、内容として未熟なものであることは否めない。しかし三浦文学、「昔ばなし」に幾分でも興味関心を持ってもらえたら幸いと思う。

60 代に入り残りの人生が見え始めた今、三浦文学をもう一度とゆっくり読み返し新たな発見とともに「心豊かな」余生を送りたいと考えている。また一度は旭川市の三浦綾子記念文学館を訪れて彼女の偉業を再確認したいと思う。

日本には二千年の歴史を有する伝統文化、慣習、文学等がある。これまでの日本は外国文化を受け入れ、外国に追いつくことが国際化と考え、日本文化が軽視されてきた。しかし近年、日本独自のものが見直され、教育界でも道徳教育の復活、日本史の必修化が進められている。自国の文化、伝統等を正しく理解し、諸外国に向けて発信していくことがますます重要視されてくるであろう。語る物なくして真の国際化はありえない。日本の山里に住む先人たちが囲炉裏を囲んで子供たちに語った「昔ばなし」を、近代化された現代社会にあっても末代まで語り継いで行くのが、今生きる私たちの使命であると考える。ライフワークとして翻訳作業を継続していきたいと思う。

開学 30 周年を迎えたキリスト教ゆかりの新島学園短期大学と関係することになり、本稿を発表できる機会を得たことはまさに神の導きである。学生には多くに人や書物との出会いを通して「心豊かな」人間となり幸せな人生を設計してもらいたいと思う。特に将来保育士、幼稚園教諭として活躍するコミュニティ子ども学科の学生においては、日本の伝承物語、民話、日本文化等を十分理解し次世代の子どもに絵本の読み聞かせ等でしっかり伝えてもらいたいと思う。最後に、この研究が『人間の本来あるべき姿』・『人間の生き方・あり方』の一助として、本短大の教育目標の一つ「平和」の貢献につながればと切に願う。

＜使用テキスト＞

１．三浦綾子

『あさっての風』（角川文庫・1977 年 5 月）
『裁きの家』(集英社文庫・1977 年 5 月)
『残像』(集英社文庫・1977 年 11 月)
『氷点』（角川文庫・1978 年 5 月）
『続氷点』(角川文庫・1978 年 5 月)
『石の森』（集英社文庫・1979 年 5 月）
『石ころのうた』(角川文庫・1979 年 5 月)
『道ありき』(新潮文庫・1980 年 3 月)
『ひつじが丘』(講談社文庫・1980 年 9 月)
『この土の器をも』(新潮文庫・1981 年 8 月)
『自我の構図』(講談社文庫・1982 年 4 月)
『泥流地帯』(新潮文庫・1982 年 7 月)
『続・泥流地帯』(新潮文庫・1982 年 8 月)
『病めるときも』(角川文庫・1982 年 8 月)
『生きること思うこと』(新潮文庫・1983 年 8 月)
『天北原野』（新潮文庫・1985 年 5 月）
『水なき雲』　（中央文庫・1985 年 6 月）
『細川ガラシャ』(新潮文庫・1986 年 3 月)
『青い棘』(講談社文庫・1986 年 5 月)
『愛の鬼才　西村久蔵の歩んだ道』(新潮文庫・1986 年 7 月)
『夕あり朝あり』(新潮文庫・1990 年 11 月)
『羽音』(主婦の友社、三浦綾子全集第３巻・1991 年 10 月)
『嵐吹く時も』（新潮文庫・1993 年 6 月）

『ちいろば先生物語』（集英社文庫・1994 年 6 月）
『母』（角川文庫・1996 年 6 月）
『明日のあなたへ～愛することは許すこと～』（集英社文庫・1996 年 10 月）
『銃口』（小学館文庫・1997 年 12 月）
『雪のアルバム』（小学館文庫・1998 年 6 月）
『愛すること信じること』（講談社文庫・2004 年 2 月）
『海嶺』　（角川文庫・2012 年 8 月）

２．工藤正宏『Old Stories of Japan「日本昔ばなし」』
（http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/7211/・1998-2013）

	作品名	(No)
①	『泣いた赤鬼』	(1)
②	『塩うす』	(32)
③	『浦島太郎』	(15)
④	『舌きり雀』	(22)
⑤	『花咲か爺』	(4)
⑥	『藁しべ長者』	(28)
⑦	『子育て幽霊』	(31)
⑧	『ねずみの嫁入り』	(43)
⑨	『鶴の恩返し』	(2)
⑩	『桃太郎』	(3)
⑪	『赤ん坊になった爺』	(55)
⑫	『かちかち山』	(10)
⑬	『歌う骸骨』	(58)
⑭	『山ぶどう』	(112)
⑮	『鉢かつぎ姫』	(197-198)
⑯	『三年寝太郎』	(17)
⑰	『炭焼き長者』	(144)
⑱	『屁こき女』	(62)
⑲	『芝浜の革財布』	(204)
⑳	『月見草の嫁』	(226)

＜参考文献＞

三浦光世『三浦綾子　信仰と文学』（日本キリスト教団出版局・2009 年 9 月）
共同訳聖書実行委員会『The BIBLE』(1987 年 9 月)
安藤邦男『英語ことわざ教訓事典』（http://www.wa.commufa.jp/~anknak/index.htm）
鈴木　勤『人を動かす名言名句大事典』（世界文化社・1991 年 3 月）

＜著者関連書籍＞

工藤正宏『Long-ago Stories of Japan Vol.2』
日本昔話２　金太郎ほか
（ＩＢＣパブリッシング・ラダーシリーズ・レベル１・2009 年 12 月）
工藤正宏『Long-ago Stories of Japan Vol.3』（2010 年 3 月）
日本昔話３　一休さんほか
（ＩＢＣパブリッシング・ラダーシリーズ・レベル１・2010 年 3 月）
金谷　慶『忙しい人の多読トレーニング・メニュー』
（ＩＢＣパブリッシング・2005 年 10 月）
北九州市教育委員会『英語大好き音読暗唱 BOOK　Rainbow』非売品

（東京書籍株式会社・2013 年 3 月）